

病後児保育室その後

2006.06.01

函館近郊は、アデノウイルス感染症、溶連菌感染症が流行中です。すっかり流行が終わったと思っていたインフルエンザB型が、大きい子を中心に一部流行しましたが、広がりを見せずに終わるようです。関東周辺では麻しんが流行して大騒ぎをしています。麻しん風疹混合ワクチンを受けていないお子さんは早めに受けるようにしてくださいね。

4月に始まった病後児保育室ですが、5月になると利用してくれるお子さんと保護者の方が増えてきました。嘔吐があってまだ完全に保育園に復帰できないお子さん、水痘にかかってしまって保育園にはいけないお子さん、中耳炎で熱が続いているお子さんなどなど病後児とはあまりいえないお子さんも「預かってくれないと私がかくびになる！！」という切実な訴えに押されています。診療所がバックアップしている場合には病気の最中のお子さんでもいいということにはなっていますが、入院と違って母から離れて熱のあるお子さんを預かるということは大変なことで、支えてくれるスタッフに感謝しているところです。2日に一人の割合で利用いただきましたので、思っていた以上に利用いただいているという印象です。病気のお子さんを預かるという関係上、昨日は熱があって申し込みを受けたけど朝にはキャンセルの電話を受けることが多々あり、嬉しい気分の反面、準備をして朝早く出てきたスタッフには多く苦勞をかけてしまっています。

病気のとぎぐらい保護者に休むよう強く言わないのか？というご意見も頂いておりますが、実家も遠く、他に預かってくれる所もなく、休みがちだと簡単に職を失いかねない現状では、誰かが何処かで受け皿を作らなければ、病気になった子どもと親を救うことはできません。開設には子どもを応援することに大変協力的な大家さんに出会えたことも幸いでした。これからも多くの方の声援がなければ、この保育室は運営していくことができません。どうか、もっと多くの所にこのような保育室ができることを望んでいます。